

障害者支援施設 皆生やまと園

1 基本方針

「尊厳の保持」をサービス提供の基本とし、利用者が健康で生きがいを持ち、安心して生活できるよう支援を行うとともに、地域生活への移行を積極的に推進する。

また、地域住民などとの連携強化や情報公開等による透明性の確保を図り、真に地域に信頼される施設となるように努める。

2 利用者の状況（令和8年3月31日現在）

(1) 入退所の状況

(人)

利用人数		前年 度末 利用 者数	令和7年度中の入退所状況								利用 延人員	定員に 対する 年間 平均 稼働率	年度末 利用者 数	
			入所 人員	退所 人員	退所理由別									
区 分	定員				地域移行		家庭 復帰	施設 移管	契約 解除 (入院等)	死亡				
		G H	アパ ート等											
生活介護		40	42	1	2	0	0	0	2	0	0	10,241	95.2%	41
施設入所支援		40	39	1	2	0	0	0	2	0	0	13,985	95.8%	38
6 年 度	生活介護	40	43	2	3	0	0	1	1	2	0	10,267	95.1%	42
	施設入所支援	40	40	1	2	0	0	1	1	1	0	14,328	98.1%	39

(2) 利用者の障害支援区分

①生活介護〔5.2〕

(人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	6	14	22
女性	0	0	0	1	6	7	6	20
計	0	0	0	1	8	13	20	42

②施設入所〔5.2〕

(人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	5	13	20
女性	0	0	0	0	5	9	4	18
計	0	0	0	0	7	14	17	38

3 事業の実施状況

(1) 利用者への専門的支援の充実

ア 意思決定支援の促進

日常の生活や活動等において利用者が自ら選択ができる場面を増やし、意思を尊重する姿勢に努めた。特に、食事や運動などの健康面に関することは、多職種間で連携して支援した。

イ 個別支援の充実

利用者の特性やニーズ、身体機能等により日中活動を3班体制に見直し、活動内容の見直しを行った。また、アート活動、スポーツ、個別支援による外出等を余暇や日中活動に積極的に取り入れ、自己実現や社会参加による利用者の笑顔を引き出す支援に努めた。

ウ 行動障がい者への支援

エール発達障がい者支援センターや医療と連携し、ケース検討会を定期的に開催している。構造化、応用行動分析等の手法を用いて利用者の不適応行動の軽減を図り、安定した生活が送れるよう支援している。また、強度行動障がい基礎研修および実践研修、さらに中核的人材養成研修に参加し、専門的知識の習得とチーム支援の向上に努めた。

エ 高齢者・病弱者への支援

毎月1回、作業療法士による機能評価を実施し、生活リハビリや介護技術の助言を受けながら、日々の生活や活動の中で機能維持、介護予防に取り組んだ。

重度高齢化への対応は年々深刻になっており、食事形態の検討や行動面の介助、見守りなどに細心の注意を払いながらも、音楽療法やレクリエーション、行事等を通して喜びと生きがいのある生活の創造に努めた。

(2) 虐待に繋がらない環境づくり

ア 虐待防止の取り組み

日々の業務点検のほか、「虐待ヒヤリハット」、月間強化目標、虐待グレーゾーン検討会、虐待防止チェックシートを定期的に行い日頃の支援の振り返りや改善策の検討、周知を行った。また園内研修会ではグループワークによる職員間の意見交換により風通しの良い職場づくりに努めた。

イ 職員のメンタルヘルスに関する取り組み

管理職による全職員への定期的な面談のほか、日常的に相談しやすい関係性づくりに努め、職員の仕事に対するモチベーションや業務負荷やストレスの把握などを行って可能な配慮に努めた。

(3) 地域との交流・地域貢献の推進

ア 地元自治会の活動も縮小傾向にあり、地域行事を通じての交流は機会が少ないが、地域の清掃活動や福生東公民館祭への出展、また近隣の公園や体育施設の活用、皆生温泉施設の利用など、利用者が地域の一員であることを意識した活動に取り組んだ。

また自治会への機関誌の回覧による情報提供等をとおして障がい者に対する理解や啓発に努めた。

イ 鳥取女子短期大学の実習や皆生養護学校の新任職員研修、ボランティア等の受け入れ、および米子市人権教育推進会議（障がい者に関する人権教育部会）に参画するなどして、地域における障がいに対する教育や啓発活動を行った。

(4) 経営改善・基盤の確立

ア 今年度は精神科からの入所が1名、退所者2名（高齢施設移管）。転倒骨折や身体機能の低下による入院が7名となった。入退院を5回繰り返したケースもあり、高齢化が進む中で老人施設への移管対象者が増えている。新規入所希望者は強度行動障がい有している方が多く、職員の欠員状況も考慮すると環境調整が難航し入所が遅れることが課題となった。人材確保と支援力の向上を図り、経営の安定につなげていきたい。

イ 生活介護については2名の新規利用者の受け入れを行った。いずれも強度行動障がいがあり専門的な支援が必要な利用者だが、活動班の体制を見直すことにより可能となった。地域ニーズに応えられるよう、今後も積極的に受け入れを行える体制を維持したい。

目標稼働率：生活介護94.0%、施設入所支援96.0%、短期入所30.0%

実施稼働率：生活介護95.2%、施設入所支援95.8%、短期入所26.2%

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	6月	2人	22人
鳥取県新規採用職員	7.8月	2人	4人
鳥取大学医学部	10月	2人	2人
鳥取大学大学院医学系研究科	5月	4人	4人
計		10人	32人

(2) ボランティアの受入実績

やまと園祭 ボランティア8名、演芸ボランティア14名（白鳳高校）

施設内コンサート 1名、移動プラネタリウム 3名

5 付帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名

(2) 日中一時支援事業 定員 空床利用（主な受入市町村：米子市、境港市、南部町）

(3) 利用実績

(人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	7	30	6	215
日中一時支援事業	3	56	4	101